

G-15 日本児童青年精神科診療所連絡協議会 (JASCAP-C)

追悼 長尾圭造先生 日本児童青年精神科診療所連絡協議会の足跡

会長: 大高一則¹、理事: 大嶋正浩²、奥野正景³、原田剛志⁴、神尾陽子⁵、中野育子⁶、橋本大彦⁷、溝口健介⁸、大瀧和男⁹、中島洋子¹⁰、藤岡宏¹¹、中庭洋一¹²

¹(医)大高クリニック、²(社)至空会メンタルクリニック・ダダ、³(三)国丘こころのクリニック、⁴(パ)ークサイドこころの発達クリニック、⁵(お)茶の水女子大学 国立精神・神経医療研究センター、⁶(札幌)こころの診療所、⁷(橋本)クリニック、⁸(ケ)ンクリニック、⁹(医)療法人と音楽がまなすクリニック、¹⁰(ま)な星クリニック、¹¹(つ)ばさ発達クリニック、¹²(医)療法人なかにわメンタルクリニック

当会は、2014年浜松での第50回日本児童青年精神医学会での児童精神科クリニックの交流会から始まった。以来、長尾圭造先生が会長として後継者を推し、これまで2回の総会・研修会を開催し、会員118名(2019年5月現在)にまで順調に発展してきたが、昨年11月26日脳病中の長尾圭造先生が逝去された。今回は、当会の発足趣意や活動を紹介するとともに、長年に渡り日本の児童精神科を牽引されてきた長尾先生の業績の一掃を披露し、追悼の意を表したい。

【趣意文】

ご存節のとおり、わが国の児童青年精神医療の歴史は長く、これまで、ごくわずかの先駆者が、その道を開き開かたにすぎません。しかしながら、近年の我が国における子どもの精神障害や、メンタルヘルス問題への関心の高まりから、地域においても、少しずつ臨床実践に取り組まれるようになりました。こういった個々の活動は素晴らしいものではりますが、お互いの経験を基に交流することや、まとまった活動をするとはなく、孤軍奮闘しているのが現状です。そこで、発起人の呼びかけにより、第1回目の交流会を平成26年、第55回日本児童青年精神医学会開催中に開催いただきましたが、多くの参加者から、いろいろな意見を聴く機会となりました。この結果を受け、今後の活動を目指して、「日本児童青年精神科・診療所連絡協議会」を立ち上げることになりました。

これまでのご意見を基に、以下のようなコンセプトで、会を組織し、活動の実施計画を立てました。

1. 主たるコンセプトとしては、「児童青年精神医学(ないし臨床)は、成人精神医学とは似て異なる存在である。つまり、成人精神医学の一部というより、もっと独自の性が高い。その理由は、横断的な視点としては、発達という視点を持つこと、そのために、年齢による精神的健康、精神症状のとりとえや出現の仕方が異なること、さらに年齢による症状の軌跡を伴うこと、子どもを診ているが、それはその子の成人期を視野においての視点で見ていることなどによる。この点を明確に意識すれば、児童青年精神科としてのアイデンティティがはつきりとする、と考える。
2. 児童青年精神科の診療を管理運営することは、このアイデンティティを裏返し、地域に責任を持った診療を実践していくことでもあるが、これを、社会に広めていく意欲と責任を感ずることにもなる。
3. 主要な活動内容は、相互交流、研修、診療所運営に関することとする。相互交流は、情報交換、意見交換、親睦などを、研修には、スタッフ研修、医師自身の研修、児童精神科医養成研修などを、診療所運営には診療報酬などの経済面、医療政策の適切な実施、管理運営を含む。

このように、児童青年精神科医としてのアイデンティティが必要であることから、組織を整えることにいたしました。この趣旨をご理解いただき、ご賛同いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

会長 長尾圭造

第1回大会 名古屋 2015年4月26日(日)

シンポジウム1「発達障害児の学校不適応」

- 司会: 石井 卓(石井クリニック) 藤岡 宏(つばさ発達クリニック)
- 1 個別支援、治療的関わり…加藤由起子(加藤メンタルクリニック)
 - 2 学校とのネットワーク…大瀧和男(かずおメンタルクリニック)
 - 3 発達障害児の学校不適応問題に関する社会資源、医療経済…中島洋子(まな星クリニック)
 - 4 発達障害児の学校不適応の病理…奥野正景(三国丘こころのクリニック)
- シンポジウム2「成人ADHDの診断と支援」
- 司会: 河村雄一(ファミリーメンタルクリニック) 中庭洋一(なかにわメンタルクリニック)
- 1 成人ADHDの横断的診断と縦断的診断…中野育子(札幌こころの診療所)
 - 2 成人ADHDの診断の定式化…原田剛志(パークサイドこころのクリニック)
 - 3 成人ADHDの薬物療法…大高一則(大高クリニック)
 - 4 成人ADHDの就労問題…橋本大彦(橋本クリニック)

第2回大会 横浜 2015年10月1日(木) —第56回日本児童青年精神医学会

シンポジウム1「子どものこころの専門医のあり方」

- 司会: 橋本大彦(橋本クリニック)
- 1 わが国にこそほしい子どものこころの診療医の布画について
〜小児科・精神科の連携を中心に〜…奥山眞紀子(国立成育医療研究センター 副院長)
 - 2 日本児童青年精神医学会が取り組む今後の我が国の子どもの専門医の在り方について
…市川宏伸(東京都立小児総合医療センター 顧問)
 - 3 現在、および今後のあるべき子どもの児童青年精神医学の方向性
…松崎寛(厚生労働省 社会 福祉局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 専門官)
 - 4 日本児童青年精神科診療所 開設者が、今後目指す目標
…長尾圭造(長尾こころのクリニック)

シンポジウム2「児童発達ケアの可能性」

- 司会: 加藤由起子(加藤メンタルクリニック)
- 1 デイケアの機能と構造…中庭洋一(なかにわメンタルクリニック)
 - 2 ショートケアの枠組みを使った不登校児対応その五年後
…奥野正景(三国丘こころのクリニック)
 - 3 当院で試行している思春期集団活動…中島洋子(まな星クリニック)
 - 4 試行錯誤の中の児童期デイケア…大嶋正浩(メンタルクリニック・ダダ)

第3回大会 大阪 2016年4月24日(日)

シンポジウム1「児童青年精神科領域における地域連携診療所での取り組みについて」

- 司会: 長尾圭三(長尾こころのクリニック) 橋本剛史(クズベ医院)
- 1 児童青年精神科領域における地域連携診療所での取り組みについて
 - 2 福岡市と対馬市における地域連携について
 - 3 児童精神科クリニックと母子(母子保護)の協力による発達障害早期支援体制の構築
 - 4 診療所を中心とした児童精神科領域における医療-教育連携について
- シンポジウム2「障害児の権利・地域福祉対応について(Q70〜80前後)」
- 司会: 大久保圭葉(おおほクリニック) 奥野正景(三国丘こころのクリニック)
- 1 ボーダーライン知能例の支援…適正就学、適切な支援を問う
…川崎葉子(むさしの小児発達クリニック)
 - 2 タッチタビングの取り組み…小林由佳(Medical Switch in clinic)
 - 3 読み・書き・計算・文章題の診察室での学習支援…橋本大彦(橋本クリニック)

第4回大会 岡山 2016年10月29日(土) —第57回日本児童青年精神医学会

1 会員施設紹介

- ・高野磨美先生(つくしこころクリニック)
 - ・中島玲先生(1はいふ心療クリニック)
 - ・金子浩二先生(かほ心療クリニック)
 - ・藤岡宏先生(つばさ発達クリニック)
 - ・小林和先生(精療クリニック) 小林
 - ・田中康雄先生(こころそだちのクリニック) むすびめ
- 2 診療上の工夫紹介
- ・市川典史先生(しかわクリニック)
 - ・原田剛志先生(パークサイドこころの発達クリニック)

長尾圭造(ながお けいぞう) 先生

1944年(昭和19年) 8月29日生まれ
2018年(平成30年) 11月26日永眠
<略歴>

昭和45年9月 大阪市立大学医学部卒業
昭和46年6月 大阪市立大学医学部・研修医・研究医
昭和51年12月まで 昭和52年1月 大阪市立桃山市民病院 精神神経科・医長・科長
平成3年3月まで
平成3年4月 医療法人サチカ会三國丘病院 院長
平成6年3月まで
平成6年4月 社会福祉法人 堺市子どもリハビリテーション
平成10年3月まで センター (初代) 所長
平成10年4月 医療法人貴生会和泉中央病院 院長補佐
平成11年2月まで
平成11年4月 財団法人浅香山病院 精神科 部長 副院長
平成14年3月まで
平成14年4月 国立療養所 柳原病院 現 独立行政法人 国立病院機構柳原病院 院長
平成15年11月 三重大学医学部 精神科 臨床教授 称号授与
平成17年4月 三重県医師会 学校メンタルヘルス分科会 会長
平成20年3月 近畿児童青年精神保健懇話会 会長
平成22年3月 国立病院機構 柳原病院 名誉院長
平成22年4月 国立病院機構 柳原病院 サプライズクリニック(付属診療所)
平成22年6月まで 柳原こころのクリニック 管理医師
平成22年7月 長尾こころのクリニック 開設者 院長

<主な役職>
国立病院機構柳原病院 名誉院長
医療法人サチカ会 理事
日本児童青年精神科診療所・連絡協議会 会長
日本小児発達医学・心理学会 理事
近畿児童青年精神保健懇話会 会長
三重県医師会 学校メンタルヘルス分科会 会長
法と小児医療研究会 代表
三重子どものこころネットワーク代表 など



第5回大会 福岡 2017年4月15日(土) ~16日(日)

- 4月16日(土)
講演「子どものうつ病」…長尾圭造(長尾こころのクリニック)
医療経済に関する報告…中島洋子(まな星クリニック)
- 4月16日(日)
【多論議】地域連携に関するシンポジウム
司会: 原田 剛志
- 1 地域連携について…中庭洋一(なかにわメンタルクリニック)
 - 2 成人の多機能と児童の多機能…大嶋正浩(メンタルクリニック・ダダ)
 - 3 児童独自の多機能…溝口健介(ケンクリニック)
 - 4 青年期までを見据えたASDへの地域支援の試み
—コーディネーターとしての臨床心理士の役割— 木谷秀勝(山口大学教育学部)
- 研修講演「Applied science(応用科学)について」…長尾圭造(長尾こころのクリニック)

第6回大会 奈良 2017年10月7日(土) —第58回日本児童青年精神医学会

- シンポジウム「睡眠の病理・理解・対応」
- 司会: 金子浩二(かほ心療クリニック) 清水聖保(清水クリニック)
- 1 選択的睡眠-背景病理とその対応法…長尾圭造先生(長尾こころのクリニック)
 - 2 場面睡眠-不安障害で活きるもの…白根スベトラム症の特性で整理すると見えてくるもの
…川崎葉子先生(むさしの小児発達クリニック)
 - 3 選択的睡眠児への学校出張プログラムの取り組みについて—その効果と限界
…新井慎一先生(尾山台すくすくクリニック)
 - 4 発達障害(ASD)を背景にもつ睡眠の睡眠…中島洋子先生(まな星クリニック)

第7回大会 札幌 2018年4月29日(日) 30日(月)

- 4月29日(日)
基調講演1「子どもの関係性から見た暴力—精神分析的な視点から」
司会: 岸田 浩(淡路神経内科クリニック) 原田剛志(パークサイドこころの発達クリニック)
演者: 川原友一(ケイクリニック) 川原
- 基調講演2「子どもの非行・犯罪から見た暴力—犯罪精神医学の視点から」
司会: 久場川哲二(久場川こころの発達クリニック) 安藤悦子(ひびきこころのクリニック)
演者: 長尾圭造(代理 中川芽衣 長尾こころのクリニック)

- シンポジウム1「家庭内の暴力について、背景・特徴・経過・介入・連携・予後など」
司会: 黒川新二(黒川メンタルクリニック) 八十八真理子(うらわエマオ診療所)
- 1 親に対する暴力をめぐる特徴・経過・介入・予後など
…館農幸恵(ときわこども発達センター)
 - 2 同胞間での暴力—事例を通じて…奥野正景(三国丘こころのクリニック)
 - 3 家族と本人との関係(環境)による暴力発症に苦慮した—自閉症例
…猪股誠司(湘南福祉センター 診療所)

- 4 子どもの行動上の問題に対する治療および予防的介入
指定発言: 田中康雄(こころそだちのクリニック) …加藤知子(かとうメンタルクリニック) むすびめ
- シンポジウム2「障害児の権利を再考する」
司会: 高宮静雄(たかみやこころのクリニック) 瀧美真理子(比呂浜こころのクリニック)
- 1 道徳少年サポートセンターとの連携—指導的役割どころこと…塩見卓也(北海道警察少年サポートセンター)
 - 2 多機能児童連携のあり方と危機介入
…山本彰(札幌学院大学、札幌市自閉症・発達障害支援センター)

総合討論「シンポジウムを受けてリスクマネージメントについてのディスカッション」
—クリニックでどこまでできるのか、すべきかの考察—
司会: 黒川新二(黒川メンタルクリニック) 大嶋正浩(メンタルクリニック・ダダ)

- 4月30日(月)
研修会「発達障害とウェクスラー検査」
司会: 川上保之(かわかみ心療クリニック)
発表者: 岡田智(北海道大学・子ども発達臨床研究センター)
- 座談会「現場への強い暴力を認めた自閉スペクトラム症の中学生男子」
司会: 田中康雄(こころそだちのクリニック) むすびめ 大高一則(大高クリニック)
発表者: 館農幸恵(ときわ病院児童精神科外来)とまき子ども発達センター

- 第8回大会 東京 2018年10月13日(土) —第59回日本児童青年精神医学会
シンポジウム「児童精神科診療所の医療経済とその周辺」
司会: 中庭洋一(なかにわメンタルクリニック) 小林由佳(Medical Switch in clinic)
- 1 児童精神科領域の医療経済の学問的側面…佐渡洋先生(慶応大学病院精神科)
 - 2 診療報酬の決定—「奥野正景(三国丘こころのクリニック)」
 - 3 多機能型併設の診療所の経営計画・予算の立て方…中島洋子先生(まな星クリニック)
 - 4 どんぶり勘定の都市型診療所が予算を立ててみました…橋本大彦先生(橋本クリニック)

※第9回大会は、本年7月14日(日)・15日(月)に浜松市内のダダ第2クリニックにて開催します。

<主な社会的活動>
病理性大腸O157のメンタルヘルス活動(1996-)
発病後、子どものメンタルヘルスに際する重要性を唱え、子どもも相談、学校での子どもへのこころの授業や大阪府と堺市の教育委員会への働きかけ、被害保護者への支援、子どもへの相談活動やグループワークなどを行った。

池田小学校児童自殺事件(2001-):
事件報道直後、大阪府健康増進課よりサポートチームの立ち上げ計画に際し、協力要請があり、すでに現地に当たっていた、大阪府小児保健課外務課で、校長先生にメンタルサポートの必要性を説明し、職員会議に参加す可態を、大阪府の医師と共に一般の先生にも説明をした。その後サポートチームの一本化をその場で果たした。

アプリア支援(1998-)
現地のボランティア活動に賛同し、ガーナの首都アクラ・ガーナに、Professor Nagao Child Rehabilitation Center が出来ている。

<専門分野>
小児精神医学・小児社会精神医学(精神障害、自閉症、PTSD、学級崩壊など)、言語発達学・言語病理学、思春期・青年期精神医学、など。

<主な著書・訳書>
『エディンズに基づいた学校メンタルヘルスの実践』(明石書店、2018年)
『ワタニ児童青年精神医学会第6版』(監訳、明石書店、2018年)
『新版児童青年精神医学』(監訳、明石書店、2015年)
『子どものうつ病の診断・治療・予防』(明石書店、2016年)
『乳児健診で使えるしめとしていかなるまでこの発達検査マニュアル』(共著、明石書店、2009年)

日本児童青年精神科・診療所 連絡協議会事務局
(医療法人社団) 至空会 メンタルクリニック・ダダ内
〒434-0043 浜松市北浜区中条1844 TEL: 080-3681-8001 FAX: 053-586-9029